

2015年高校入試で人気の出そうな私立高校

東京 中間段階では応募者が減っていますが、まだ増えます！

東京都から、都内私立高校一般入試の1月28日正午現在の間申募状況が発表になりました。

申募者総数は58,814名で、昨年より約1,000名減少しています。申募者数を各校の募集定員で割った中間倍率は2.84倍で、昨年同期の2.95倍よりも下がっています。集計時点が昨年より1日早いことと曜日との関係です。進路希望調査では男子の私立志向が上がっていることから、申募者数は今後まだ増えるでしょう。

昨年との比較で申募者の増加が目立つのは、申募者総数100名以上の学校では京華、日本学園、本郷、桐朋、小野学園女子、安部学院、共立女子第二、日体桜華、東洋、郁文館、昭和第一、中央学院大学中央、多摩大学目黒、大森学園、立正大学附属立正、東京農大第一、三田国際学園（現戸板女子・共学化・校名変更）、青山学院、國學院、堀越、淑徳巣鴨、豊島学院、豊南、淑徳、大東文化大学第一、帝京八王子、昭和第一学園、桜美林の申募者の増加が目立ちます。また、100名未満の学校では佼成学園、明法、北豊島、昭和鉄道の増加が目立ちます。こうした学校に人気が集まっていることがわかりますが、模試で人気が上がっていた学校でも、出願の進み具合から、まだ昨年並みに達していない学校も見られ、「人気上がる学校はこれだけだ」と考えると危険です。しっかり準備して入試に臨んでください。

埼玉

埼玉県教育委員会は1月13日、12月15日現在の県内中3生の進路希望調査結果を発表しました。公立中学校の卒業予定者数はやや減っています。全日制公立高校への進学希望率は昨年並み、県内私立高校への希望率は若干上がっています。また、県内国立高校（といっても筑波大学附属坂戸だけ）の希望者が増えています。同校はSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）に指定され、2015年度からコース制を実施、SG（スーパーグローバル）を新設します。こうした改革に期待する受験生の動きでしょう。

12月の進路希望調査の結果では、10月の調査より私立高校の希望者が増えています。進路

希望調査は第一志望を尋ねるもので、人数では星野、埼玉栄。早稲田大学本庄、叡明（小松原が移転・共学化して校名変更）、浦和学院、秀明英光、本庄第一、花咲徳栄、本庄東が上位10校です。また、県から発表された1月13日現在の、併願を含めた応募者数では、秋草学園、叡明、川越東、城北埼玉、獨協埼玉、星野、武蔵越生が昨年最終を上回っていて、淑徳与野、正智深谷、本庄第一、山村学園もかなり近い水準になっています。今年の人気校はこれらの各校です。

千葉

千葉県では1月17日から前期選抜が始まりました。県発表の1月14日現在の応募状況では、全県合計で52,224名と、側年の52,580名より若干減っていますが、1月15日以降も出願を受け付けている学校がありますから、最終的には昨年とほぼ同数になりそうです。1月14日現在で昨年の応募者数を10%以上上回っているのは、昭和学院、茂原北陵、千葉黎明、麗澤、千葉明德、専修大学松戸、柏日体、横芝敬愛、東京学館船橋で、特に千葉明德は33%と大幅な増加です。同校は昨年、応募者減少を覚悟で大幅なコース改編を実施し、レベルアップを図りました。実際の入試結果でも応募者は大きく減りましたが、1年経って新コース制が受験生に浸透したようです。昭和学院、横芝敬愛、東京学館船橋も20%を上回る増加です。応募者数がやや増えたのは千葉商科大学付属、千葉学芸、二松學舎大学付属柏、不二女子、東京学館浦安、市原中央です。今年の人気校がよくわかります。

神奈川は大きな変動は見られない

神奈川県は、10月の公立中3生への進路希望調査では公立希望率、県内私立の希望率とも昨年並み、県外私立希望率が僅かに上昇していました。ですので、人気の変動が目立つ学校はあまりありませんが、模試では横浜商科大学、三浦学苑などが目立っています。慶應義塾は入試日を今回のみ、2月12日に変更します。その影響を受けそうなのは、山手学院と桐蔭学園です。山手学院は入試日を2月11日にしますし、桐蔭学園は今回、初めて書類選考型入試を実施します。しかし合格ラインにまでは影響は及ばないとみていいでしょう。